

博報財団 第10回「国際日本研究フェローシップ」成果報告書

I. 研究成果概要

氏名	LALY Cecile(ラリ セシル)
在住国名	フランス
所属・役職	パリ・ソルボンヌ大学 極東研究センター(GREOPS) 博士研究員
招聘回(招聘研究期間)	第1回 (2015年 9月 1日～ 2016年 8月 31日)
受入機関	国際日本文化研究センター
招聘研究テーマ	『凧物語』
研究目的	本研究プロジェクトは、日本の凧の世界の人々の実践を明らかにしようとするものである。具体的には:1)凧製作者の研究。現代社会における彼らの職業と歴史的な発展、そして彼らと浮世絵などの伝統的な絵画、地方の伝統文化との関係の研究。2)日本の凧文化の保存と製作者の存続を助力する凧のアマチュア製作者、凧の愛好家、凧のコレクター、そして機関の研究。3)凧に関わる作品を生み出すアーティストの研究からなる。
研究概要:	<p>本プロジェクトを実行するため、まずは全国で現在存命の凧製作者を探さなければならなかった。凧製作者の大部分は日本の凧の会のメンバーではないし、凧製作者の同業組合もないので、この調査は当初の見込みよりも時間がかかった。結局、1年間のフィールドワークで16名の製作者を見つけることができた。彼らの工房を訪問して、インタビューを行った。</p> <p>次に、日本にある5箇所の凧の博物館(1. 凧の博物館・たいめいけん、2. 浜松まつり会館、3. 世界凧博物館東近江大凧会館、4. 五十崎凧博物館、5. しろね大凧と歴史の館)を訪れた。また日本凧の会(JKA)の協力のもと、凧のアマチュア製作者、凧あげ師、凧のコレクター、関係者を調査すると同時に、凧にインスピレーションを受けた作品を生み出している人々の活動も探していた。</p>
展望:	<p>1年間のインタビューで、様々な資料を収集することができた。この滞在期間中にも、いくつかのセミナーで口頭発表を行った。これから研究の成果を論文にまとめていきたい。まず、2016年9月に雑誌『日文研』に、「空から博物館へー1960-70年代の凧の愛好者の活動ー」というタイトルで論文を発表する予定。フランスでも論文を発表していきたい。</p> <p>また、日本滞在時、本研究に関心を持つ研究者たちと出会うことが出来た。彼ら、彼女らとは興味深いコラボレーションが出来ると確信している。将来、日仏共同シンポジウムを開催したいと思う。</p> <p>しかし、日本の伝統的な凧文化の保護にも貢献するため、いささか狭いアカデミックな世界だけではなく、それ以外の人々にも、研究の成果を発表したい。そのために、日本人の写真家きよし・まみと共同で展覧会の開催と本の出版を計画している。彼女に、私が選んだ和凧製作者のポートレートを撮ってもらい、それぞれの写真のために、私はテキストを書く予定である。このプロジェクトを実現するために、今、資金提供者を探している。</p>